和文表題（17pt　和文：MS明朝　欧文：Times New Roman　行間隔：27）

和文副題（14pt　和文：MS明朝　欧文：Times New Roman　行間隔：20.25）

　　 英文表題（14pt　和文：MS明朝　欧文：Times New Roman　行間隔：20.25）

英文副題（12pt　和文：MS明朝　欧文：Times New Roman　行間隔：20.25）

塑性 太郎\*（11pt　和文：MS明朝　欧文：Times New Roman）

5

10

15

20

25

30

35

40

45

50

5

10

15

20

25

30

35

40

45

50

解　説

1. はじめに

このテンプレートは，解説系原稿の書式を統一するためのもので，このままお使い頂けるように作成されています．ただし，題目の行数，副題の有無，著者の人数等は，適宜修正してください．

1. 解説原稿の基本書式

原稿全体を通しての基本書式を表**1**に示す．

　　　　　　　　　　　[表1]

3.　スタイル

|  |
| --- |
| 原稿受付　　2019　年　1　月　1　 日 \*塑性加工学会 会報誌編集委員会 〒105-0012 東京都港区芝大門1-3-2　 E-mail: sosei@jstp.or.jp  |

書式を整えると同時に書誌情報抽出のために，原稿の各部分に表**2**に示す“スタイル”を適用する．ここで“スタイル”とはMicrosoft Wordの機能で，段落に対して設定されたフォント，インデント，タブなどの書式に名前を付けて登録したものである．表2の各スタイルは解説系レイアウト雛形Word版にてすでに定義・登録されている．この雛形

を使用し，既設定の書式を崩さないように注意して文字を

置き換えれば，スタイルは適正に設定されるはずであるが，投稿時には再度，スタイル名が規定通り設定されているか確認する．なおスタイルそのものの定義は変更しないこと．

　　　　　　　　　　　　[表2]

4.　図 表・数式

4．1　図の配置例

図表の幅は原則として左右の段幅以内とし，なるべく本文中のその図の説明記述箇所近くに配置する．また，和文原稿見本のように段内で左右センタリングし，本文との間は1行程度あける．

また，本文中に図・表の挿入位置を指示した場合は，本文と図・表を分けた原稿も可とする．この際は，枚数の超過がないように，図のサイズに合わせて，本文に図の挿入位置を開け，本文の後ろに図・表のみの頁を付けること．

　　　　　　　　　　　[図**1**]

5

10

15

20

25

30

35

40

45

50

4．2　数式

原則，数式エディタを使用して作成する．数式エディタにおける文字サイズは**表3**の値を標準とする．

5

10

15

20

25

30

35

40

45

50

5

10

15

20

25

30

35

40

45

50

　　　　　　　　　　　[表**3**]

ただし，数式のサイズ定義は，通常，レイアウト雛形Word版を使用しても自動的に設定されることはなく，使用しているWordソフトのユーザー設定が優先されるため，手動で設定する必要がある．

5.　章見出し

章の見出しは，「半角数字＋半角ピリオド＋全角スペース＋見出し文」である．

5．1　節見出し

節の見出しは，「半角数字＋全角ピリオド＋半角数字＋全角スペース＋見出し文」である．

 (1) 節以下の小見出し　□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□1) ~ 6)．□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□注1)．

|  |
| --- |
| 注1)　塑性工業（株）: http://www. ･･･ . ･･･ |
|  |

参　考　文　献

1. 鍛造太郎：ぷらすとす，**1**-1(2018)，100-105．
2. 鈴木文男：塑性と加工，**20**-222(1979)，620-624．
3. 伊藤忠：日本機械学会論文集A編，**50**-458(1984)，1732-1736．
4. Sowerby, R., Johnson, W. & Samanta, S. K.: Int. J. Mech. Sci., **10**-3 (1968), 231-233.
5. Hill, S.: Int. J. Mech. Sci., **12**-5(1970), 402-403.
6. 青山越夫・田中一郎・佐藤孝：第20回塑性加工連合講演会講演論文集，(1969)，250-251．
7. 青山越夫・田中一郎：平成4年度塑性加工春季講演会講演論文集，(1992)，510-511．
8. Wilson, W. R. D.: Proc. 3rd ICTP, (1990), 1667-1668.
9. 青山越夫：応用塑性学，(1969)，250-251，塑性社．
10. Prager, W.: Theory of Plasticity, 1, (1951), 264-265, Pergamon Press.
11. ブリューゲ, W. 著・堀守夫 訳：粘塑性学，(1975)，66-68，六本館．
12. 村上正生・川上正：特許第1234567号．
13. 塑性工業（株）：金型材料カタログ，(2004)．

14) 塑性太郎：日本機械学会論文集, 80-789 (2014) , DOI:10.1299/transjsme.2014fe1110.

[図・表ページ]

表**1**　基本書式

表**2**　数式エディタで使用する文字サイズ

(b) 潤滑剤の影響

(a) 工具直径の影響

|  |  |
| --- | --- |
| 用紙サイズ，マージン等 | A4白紙，上下左右とも20mm，全角26字×54行×2段組・段間6～8mm  |
| 構成 | 表題・著者，本文，参考文献 |
| 使用文字フォント | 漢字，ひらがな，カタカナ：MS明朝アルファベット文字：Times New Romanギリシャ文字：Symbol本文文字サイズ：9pt図表キャプション文字サイズ：8pt |
| 句読点 | ‘，’（カンマ）と‘．’（ピリオド）を使用 |
| 図表の配置・解像度 | 本文中の説明記述箇所近くに割付け，本文との間に1行程度の余白を空ける．ファイルに挿入する図表の解像度は300～600dpiとする． |

|  |  |
| --- | --- |
| 標準 | 9pt |
| 上付き/下付き文字（メイン） | 9pt |
| 上付き/下付き文字（サブ） | 7pt |
| シンボル | 18pt |
| シンボル文字（サブ） | 8pt |

|  |  |
| --- | --- |
| 和文表題 | 001-和文タイトル |
| 和文副題 | 002-和文サブタイトル |
| 英文表題 | 003-英文タイトル |
| 英文副題 | 004-英文サブタイトル |
| 和文著者名 | 005-著者名 |
| 章見出し | 006-本文見出し001 |
| 節見出し | 007-本文見出し002 |
| 本文 | 008-本文 |
| 参考文献 | 009-参考文献 |
| 図表の番号 | 010-図キャプション |
| 図表のキャプション | MS明朝，Times New Romanにする． |
| 著者所属 | 011-著者所属 |

表**2**　適用するスタイル名

図**1** 加工荷重に及ぼす加工因子の影響